

# アドバンスケアプランニング の実際 がん緩和ケアの観点から

はしづめクリニック

橋爪隆弘

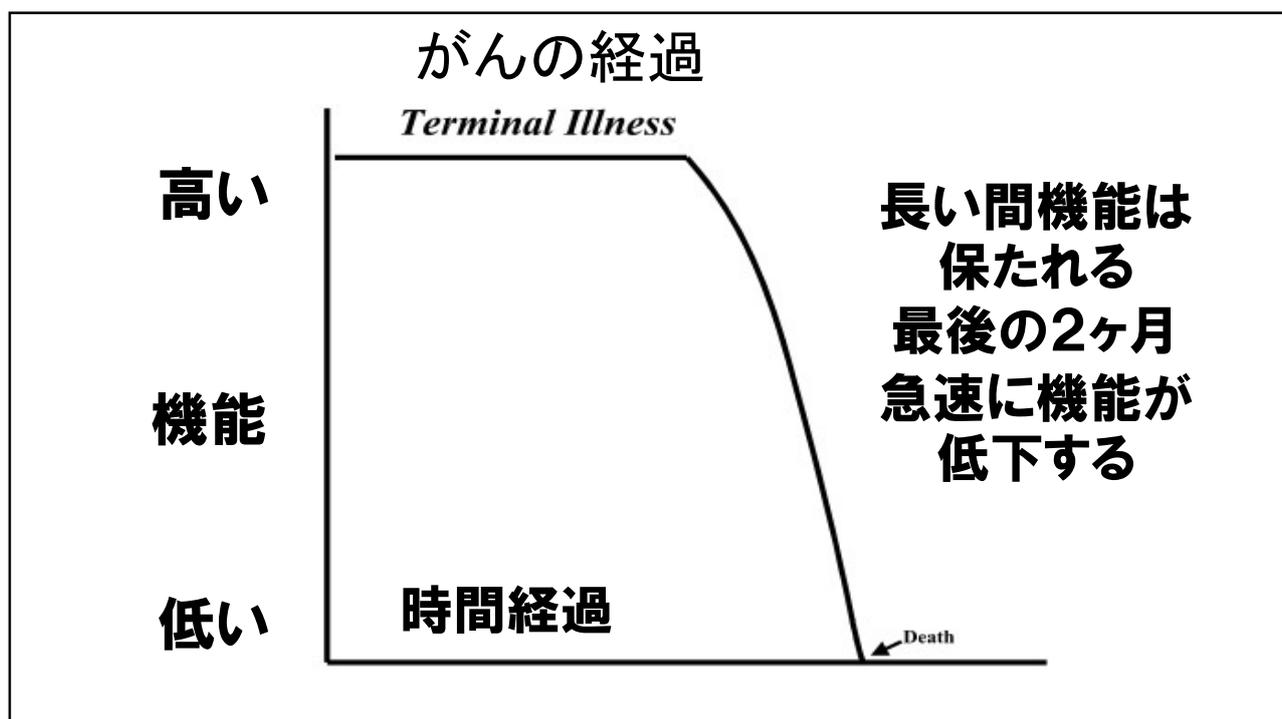
がん診断

がんの  
再発・進行

抗がん治療中止

終末期



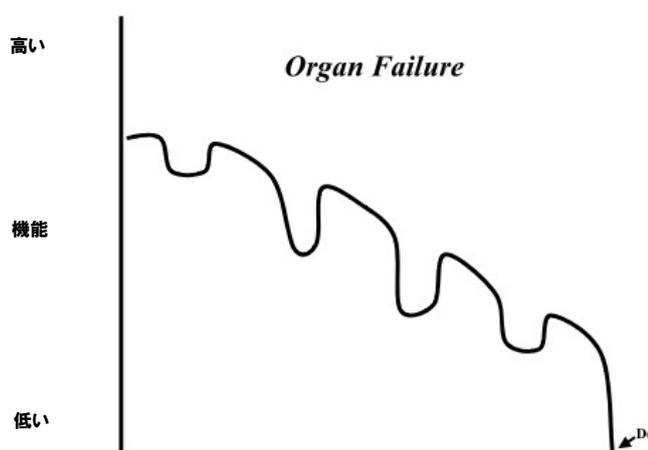


肺がんが再発し、多発骨転移による疼痛がある。これまでオプジーボを含む化学療法を3レジメン行った。

今回呼吸困難があり入院した。通常経過をたどると予後は3か月程度と予測された。

- A:さらなる化学療法
- B:延命のための出来るかぎりの治療  
→人口呼吸器の装着を含む
- C:機能を維持する(あまり侵襲的でない)治療  
→呼吸困難に対してモルヒネなどの使用
- D:緩和ケア病棟への転院
- E:在宅移行の準備

## 心・肺疾患



**急性増悪を繰り返しながら、  
徐々に機能が低下する  
最後は比較的急に低下する**

85歳男性。心不全で治療中。この1年間誤嚥性肺炎を数回繰り返しそのたびに入退院をしていた。食事量も減っていた。今回発熱、呼吸困難、意識障害があり救急搬送された。かなり厳しい状況である。  
救急外来でどうしますかと聞かれた。

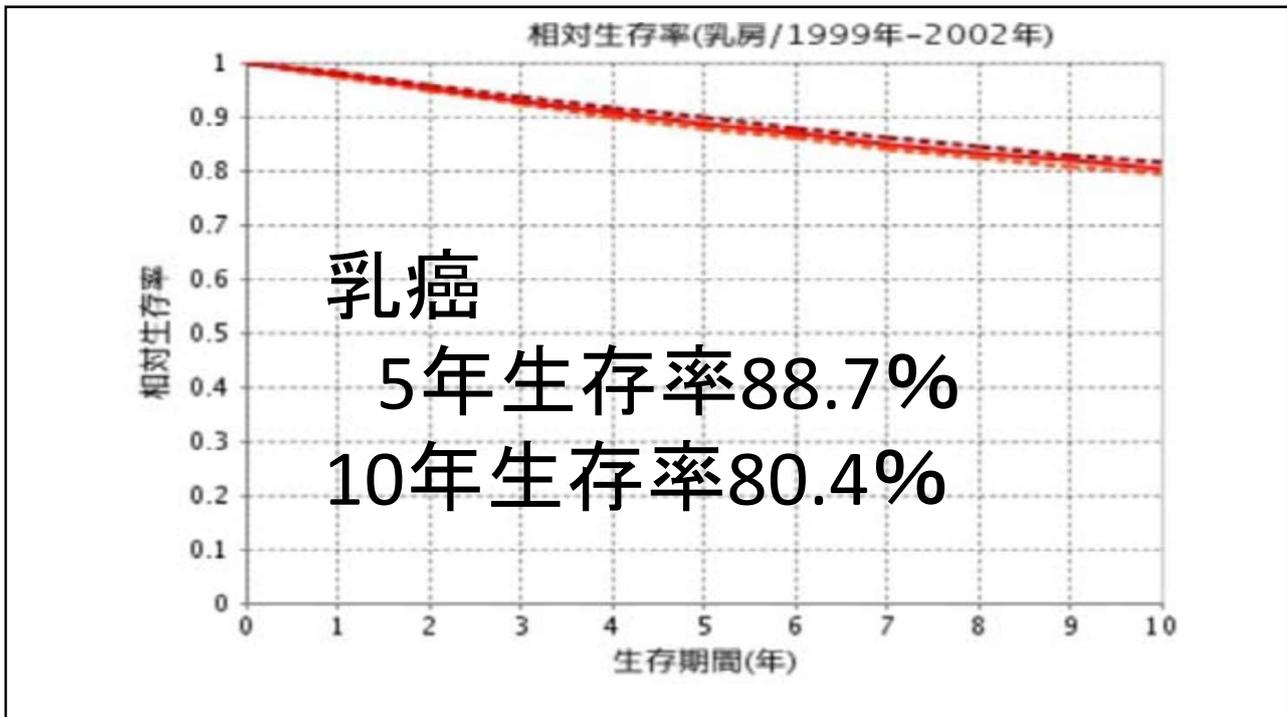
- A: 延命のための出来るかぎりの治療
  - 人口呼吸器の装着を含む
  - 胃瘻の増設
- B: 酸素投与、抗生剤治療
  - 人口呼吸器は装着しない
- C: 相談する

## 再発後の治療目標

- 1、延命
- 2、症状の緩和
- 3、QOLの維持

## Elephant in the room

a problem that everyone knows  
very well but no one talk about  
because it is taboo, embarrassing



再発治療:「がんが効きます」

医療者側

「がんが一時的に小さくなる」

「痛みがとれるが、治ることではない」

患者さん・家族側

「がんが治る」

「悪い知らせを本人が分かるように伝える」

コミュニケーション技術が必要

## 患者の意向

- 治る見込みがない時に見通し(治療期間・余命)を知りたい: 77%

厚生労働省 終末期医療に関する調査等検討会報告書 2008

- 今後のことについて、患者は実際に担当している医師と話したいと思っている

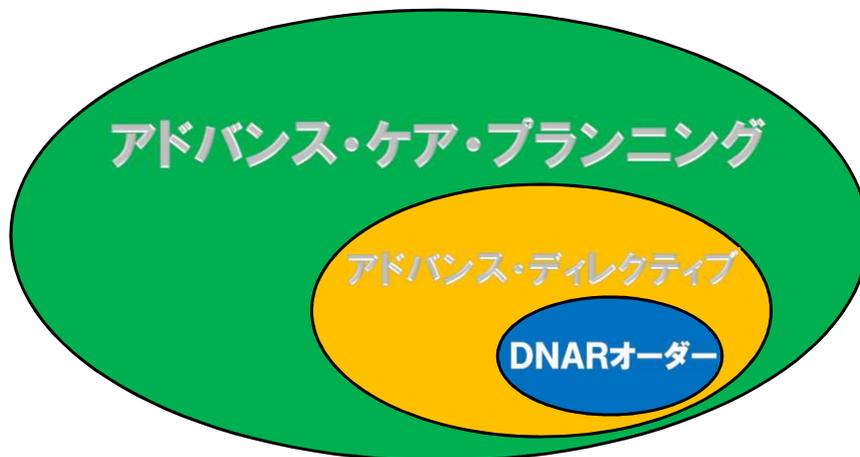
Lo B, Arch Intern Med. 2004

## Advance Care Planning

### 今後の治療・療養について話し合うプロセス

- 現在の気がかり
- 患者の価値観や目標
- 現在の病状や今後の見通し
- 治療や療養に関する選択肢

## アドバンス・ケア・プランニング (ACP) とは



Advance Care Planning: A Guide for Health and Social Care Staff. National End of Life Care Programme. Web site. Available at [http://www.endoflifecareforadults.nhs.uk/assets/downloads/pubs/Advance\\_Care\\_Planning\\_guide.pdf](http://www.endoflifecareforadults.nhs.uk/assets/downloads/pubs/Advance_Care_Planning_guide.pdf). Accessed August 9, 2010. 1月1日改定

## 治療・ケアのゴールを話し合う

- 患者・家族とそれを支援する医療チームとの共同作業である



治療とともにあなたが大切  
にしていることは何ですか？  
どのように過ごしていきたい  
ですか？

1、治療の内容について医師から説明を受けていますか

はい  いいえ  受けているがよく分からない

2、病気がどのような経過をたどるか医師から説明を受けていますか

はい  いいえ  受けているがよく分からない

3、どのような経過をたどるか詳しく説明を受けたいですか

はい  いいえ  自分は聞きたくないが家族にしてほしい

## 治療を受けながら大切にしたいこと

- 身の回りのことが自分でできる
- 仕事や家庭で役割が果たせる
- 望んだ場所で過ごせる
- 大切な人に伝えることを伝える
- 人の迷惑にならない
- 弱った姿を見せない
- 痛みや苦しみが少なく過ごせる
- 先々に起こることを詳しく知っておく

## 治療についての希望(再発時)

- 苦しくても1日でも長く生きられる治療
- 痛みや苦しい症状が楽になる治療
- 保険外(自費診療)の治療
- 副作用の少ない治療
- 病院を変えて治療

## 病状が悪化した場合どこで療養したいか

- 自宅
- 現在治療中の病院
- 緩和ケア病棟
- 介護施設
- グループホーム
- 分からない
- その他

## Advance Care Planningに関する話し合い

- 好ましいタイミング
  - 再発時
  - 治療の効果がなくなった時
- 好ましくないタイミング
  - 診断時
  - 抗がん治療中

## Advance Care Planningに関する話し合い

- 診断時
- 抗がん治療中
- 再発時
- 治療の効果がなくなった時
- いつでも

### ACP導入: 良い点

- 患者の意思が尊重
- 今後のことを考えるきっかけ
- 意思を伝えることによる安心と信頼
- 治療方針やケアの円滑化
- 病状の理解と今後の見通し
- 患者・家族間の意思疎通

ACP導入: 困難になる点

- 患者の不安を高め、負担になる
- 考えることが苦痛
- 周囲への気遣いと本心のずれ
- 決断を迫られる
- 家族と意見が異なると関係がもつれる
- 今後の希望がもてなくなる

ACP導入: 困難になる点(医療者側)

- 時間、場所、人員
- 患者に理解が得られるか
- 医療者側のコミュニケーションスキル
- 家族と価値観が異なると調整が困難
- 同じスタッフが関われない
- 対象年齢

## 54歳女性 乳癌術後

X-9年7月右乳癌T1N2の診断で乳房温存手術を施行。  
ホルモン受容体陽性、HER2陰性。術後化学療法後、  
ホルモン療法を施行した。

X-3年6月肺転移・骨転移再発あり。地元での治療を勧められA病院を乳腺外科へ紹介された。

職業：銀行勤務（非常勤）

家族構成：夫は1年前事故死

長女27歳（東京：看護師）、次女24歳（事務職）

長男20歳（仙台 企業勤務）

## 第3次ホルモン療法を開始時

### Advance Care Planning 1

主治医から

「病気の進行をできるだけ遅くするのが治療の目標  
気になることやつらいことがあれば教えてほしい」

本人

「できれば再発がもう少し遅くきてほしかった」

ホルモン療法、骨転移の治療を継続

Advance Care Planning 2

肺転移、肝転移の悪化、脳転移により入院。  
ほとんど動けず。

本人、長女、次女と面談

「今後どのように生活していきたいのか」

本人の意向

できるだけ長生きしたい

抗がん剤で治らないことはわかっ  
ている

家族と少しでも一緒にいたい

## 化学療法 BV+PTX導入し症状は安定 Advance Care Planning3

化学療法が奏功して退院  
1年間外来にて化学療法を施行  
職場にも復帰

「最期はどこで迎えたいと思っている？」

## 肝転移、肺転移、脳転移が悪化 Advance Care Planning4

主治医から  
「現在の状況では化学療法の継続は困難」  
「時間が限られている」  
本人  
「やはり自宅がいい」「家族と一緒にがいい」

## 60歳代 HER2陽性乳癌

平成22年8月 右乳癌T2N1 術前化学療法H+DTX、FEC100 CR

平成23年2月 乳房切除術、腋窩郭清 脳転移(数個)

病理pCR リンパ節転移なし

術後ガンマナイフ、ハーセプチン®治療を継続

平成26年2月 頸部リンパ節再発 生検にてHER2強陽性

パージェタ®+PTX(12か月)、カドサイラ®(12か月)治療 PD

平成28年4月 鎖骨上、腋窩リンパ節再発:放射線治療

## 本人背景

福祉関係施設職員

未婚、独居

30年前両親から土地、財産など遺産を相続

姉(名古屋近郊)

病状の理解は十分

## Advance Care Planning

- 1、最期はどこで過ごしたいのか
- 2、キーパーソン
- 3、財産はどのように引き継ぐのか
- 4、今後の治療の希望は

## Advance Care Planning

- 何を大事にしていきたいのか
- どこで過ごしたいのか
- 主治医が適切な時期に話し合いを行う
- チームで情報の共有を行う

## Advance Care Planningに関する話し合い

### • 好ましいタイミング

- 再発時
- 治療の効果がなくなった時
- 抗がん治療中
- 診断時

## ACPの導入 課題

- 施設内でのコンセンサスが必要
- まずは試行すること
- 勉強会
- 地域内での情報交換
  - 秋田県ACP勉強会(仮)
- 「患者の意向を尊重した意思決定のための研修会」
  - 全国各地12回開催
  - 平成28年度厚生労働省委託事業 神戸大学 木澤義之